

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	ヒロ・デザイン専門学校
設置者名	学校法人出田文化学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のあ る教員等によ る授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配 置 困 難
服飾専門課程	プロフェッショナル デザイン科		4 1 6	3 2 0	
	ファッション流通ビ ジネス科		2 3 4	1 6 0	
	ブライダル科		2 2 7	1 6 0	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ホームページ https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_2.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ヒロ・デザイン専門学校
設置者名	学校法人出田文化学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校ホームページ	https://www.hiro-design.ac.jp/outline/greeting/
学校パンフレット	

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	令和4年6月15日～ 令和7年5月30日	学校経営
非常勤	会社役員	令和4年6月15日～ 令和7年5月30日	学校経営
非常勤	事業主	令和4年6月15日～ 令和7年5月30日	教務関係
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ヒロ・デザイン専門学校
設置者名	学校法人出田文化学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・授業の方法は、基本概要講義⇒校内実習⇒企業インターンシップ研修の順に全体カリキュラムを設計し、それぞれの科目でのシラバスを作成している。 ・個々の科目のシラバス作成については、担当教員が作成し教務部長による確認審査後に学校長をトップとする教育課程編成会議において承認する。 ・到達目標については、各学科に対応した業界で即戦力となる知識と技術を身につけていることとしている。 ・評価については、評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行うことを基本にしている。 その上で、講座が中心の科目については、その知識・理解を問うため原則として筆記試験を行う。 実習については実習先機関と連携し、実習中の成果物及び態度等を基に判定し評価している。 実技中心の科目では完成した作品の評価を基本とするが、その製作過程における態度、提出期限等も作品評価の中に反映させている。 ・作成した各学科別学年別シラバスについては前年度末にホームページで公表することとしている。	
授業計画書の公表方法	本校ホームページで公表する https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_3-1.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学習成果の評価に当たっては、あらかじめシラバスで示した基準に従い厳格かつ適正に実施している。評価の視点として、学習中の態度も評価要素としており、発言の回数とか、その発言の内容、どれくらいの時間で、どれだけのレベルのものができたかなど、量や質も含めている。 評価の対象としては、学科試験、レポートや作品(提出物)及び学習態度、研修委託先レポート等を要素として評価点を設定し総合的に判定している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 客観的な成績評価を推進するため、GPA制度を導入している。 具体的には授業科目ごとに0～4段階のポイント(100点から90点＝4ポイント、89点から80点＝3ポイント、79点から70点＝2ポイント、69点～60点＝1ポイント、59点以下＝0ポイント)のポイントを付した上で、学生ごとの成績の平均を算出することとしている。 成績評価を厳格に行い、より教育効果を高めると共に教員の指導方法改善、学生の自主性を促進することを目的としている。 この制度導入の結果、成績評価の方法等の見直しについてホームページで公表するとともに、成績の分布状況等を分析し、教育の実施改善に活用している。 更に、前後期の学期末において、クラスごとの全学生GPAデータを職員会議で共有し、学科間のバランス等の問題点を共有し改善に努めている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本校ホームページで公表する。 https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_4.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ・修了及び卒業の判定は、各学年の終了認定[前後期の各試験の成績(各科目60点以上で必須科目の「不可」が2科目以内)、出席(科目ごとに4/5以上の出席時間数)、課題製作物(完成物を期限までに提出し評価が「不可」でないこと)の各評価]を基に、とする卒業認定会議(学校長をトップの教員会議)において総合的に審査・判断し、学校長がこれを認定する。 ・卒業認定方針については学校ホームページで公開する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本校ホームページで公表する。 https://www.hiro-design.ac.jp/files/p10_5.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ヒロ・デザイン専門学校
設置者名	学校法人出田文化学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校ホームページ https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf
収支計算書又は損益計算書	学校ホームページ https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf
財産目録	学校ホームページ https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf
事業報告書	学校ホームページ https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf
監事による監査報告（書）	学校ホームページ https://www.hiro-design.ac.jp/files/p08.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾専門課程	ブライダル科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1 8 7 1 単位時間	779 単位時間	644 単位時間	448 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1871 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		3 人	0 人	1 人	4 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）ブライダル論等の講義及びブライダル企画等の演習で基本から実践までを学び、企業インターンシップ研修により更に高度な実践を経験することで、業界の即戦力となるレベルのスキルを修得する。 ・授業の方法は、基本概要講義⇒校内実習⇒企業インターンシップ研修の順に全体カリキュラムを設計し、それぞれの科目でのシラバスを作成している。 ・個々の科目のシラバス作成については、担当教員が作成し教務部長による確認審査後に学校長をトップとする教育課程編成会議において承認する。

・到達目標については、各学科に対応した業界で即戦力となる知識と技術を身につけていることとしている。 ・評価については、評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行うことを基本にしている。 その上で、講座が中心の科目については、その知識・理解を問うため原則として筆記試験を行う。 実習については実習先機関と連携し、実習中の成果物及び態度等を基に判定し評価している。 実技中心の科目では完成した作品の評価を基本とするが、その製作過程における態度、提出期限等も作品評価の中に反映させている。 ・作成した各学科別学年別シラバスについては前年度末にホームページで公表することとしている。
成績評価の基準・方法
(概要) 授業科目ごとの試験及び提出物評価（60%以上の評価で合格）
卒業・進級の認定基準
・各学年の授業日数の4／5以上の出席及び、各教科の4／5以上の出席 ・各年科目評価で不可が2科目以内
学修支援等
(概要) 授業内容の理解を深めるため及び外部の検定試験合格促進を目的として、休み時間を活用した個別指導や放課後や土曜日等の補講、更には夏休み等の長期休暇期間中の補講等を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 専門結婚式場			
(就職指導内容) 自己分析、企業リサーチ、履歴書作成指導、面接指導等に加えて企業インターンシップでの経験を基に就活指導をきめ細かく実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 専門士、ブライダルプランナー検定1級、2級、フォーマル検定準2級 等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常指導：観察とコミュニケーション ・無断欠席者への連絡、 ・面談：年 3 回以上（課題の早めの把握、問題の共有、課題解決の支援）、3 者面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾専門課程	ファッション流通ビジネスビジネス科 プロデュースコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1862 単位時間	1035 単位時間	581 単位時間	246 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1862 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人の内		12 人	0 人	4 人の内	4 人の内	8 人の内	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾専門課程	ファッション流通ビジネスビジネス科 ショップスタイリストコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1862 単位時間	1035 単位時間	581 単位時間	246 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1862 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人の内		0 人	0 人	4 人の内	4 人の内	8 人の内	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾専門課程	ファッション流通ビジネスビジネス科 テクニカルコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1860 単位時間	1001 単位時間	426 単位時間	433 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1958 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人の内		0 人	0 人	4 人の内	4 人の内	8 人の内	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要）ファッションビジネス論等の講義及びビジネス企画等の演習で基本から実践までを学び、企業インターンシップ研修、実店舗開設等により更に高度な実践を経験することで、業界の即戦力となるレベルのスキルを修得する。・授業の方法は、基本概要講義⇒校内実習⇒企業インターンシップ研修の順に全体カリキュラムを設計し、それぞれの科目でのシラバスを作成している。 ・個々の科目のシラバス作成については、担当教員が作成し教務部長による確認審査	

後に学校長をトップとする教育課程編成会議において承認する。 ・到達目標については、各学科に対応した業界で即戦力となる知識と技術を身につけていることとしている。 ・評価については、評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行うことを基本にしている。 その上で、講座が中心の科目については、その知識・理解を問うため原則として筆記試験を行う。 実習については実習先機関と連携し、実習中の成果物及び態度等を基に判定し評価している。 実技中心の科目では完成した作品の評価を基本とするが、その製作過程における態度、提出期限等も作品評価の中に反映させている。 ・作成した各学科別学年別シラバスについては前年度末にホームページで公表することとしている。 ・授業の方法は、基本概要講義⇒校内実習⇒企業インターンシップ研修の順に全体カリキュラムを設計し、それぞれの科目でのシラバスを作成している。 ・個々の科目のシラバス作成については、担当教員が作成し教務部長による確認審査後に学校長をトップとする教育課程編成会議において承認する。 ・到達目標については、各学科に対応した業界で即戦力となる知識と技術を身につけていることとしている。 ・評価については、評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行うことを基本にしている。 その上で、講座が中心の科目については、その知識・理解を問うため原則として筆記試験を行う。 実習については実習先機関と連携し、実習中の成果物及び態度等を基に判定し評価している。 実技中心の科目では完成した作品の評価を基本とするが、その製作過程における態度、提出期限等も作品評価の中に反映させている。 ・作成した各学科別学年別シラバスについては前年度末にホームページで公表することとしている。			
成績評価の基準・方法			
(概要) 授業科目ごとの試験及び提出物評価（60%以上の評価で合格）			
卒業・進級の認定基準			
・各学年の授業日数の4／5以上の出席及び、各教科の4／5以上の出席 ・各年科目評価で不可が2科目以内			
学修支援等			
(概要) 授業内容の理解を深めるため及び外部の検定試験合格促進を目的として、休み時間を活用した個別指導や放課後や土曜日等の補講、更には夏休み等の長期休暇期間中の補講等を実施している。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

4 人 (100%)	0 人 () (%)	4 人 (100%)	人 () (%)
(主な就職、業界等) アパレル企業（販売職）			
(就職指導内容) 自己分析、企業リサーチ、履歴書作成指導、面接指導等に加えて企業インターンシップでの経験を基に就活指導をきめ細かく実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) ファッション販売検定 2 級、ファッションビジネス検定 2 級等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	1 人	8.3%
(中途退学の主な理由) ・進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常指導：観察とコミュニケーション ・無断欠席者への連絡、 ・面談：年 3 回以上（課題の早めの把握、問題の共有、課題解決の支援）、3 者面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾専門課程	プロフェッショナル デザイン科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	3735 単位時間	825 単位時間	297 単位時間	2613 単位時間	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			3735 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		28 人	0 人	4 人の内	6 人の内	10 人の内	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）服飾デザイン論等の講義及び服飾造形論等の実習で基本から学び、ファッションコンテストへの応募や企業インターンシップ研修等により更に高度な実践を経験することで、業界の即戦力となるレベルのスキルを修得する。・授業の方法は、基本概要講義⇒校内実習⇒企業インターンシップ研修の順に全体カリキュラムを設計し、それぞれの科目でのシラバスを作成している。

・個々の科目のシラバス作成については、担当教員が作成し教務部長による確認審査後に学校長をトップとする教育課程編成会議において承認する。 ・到達目標については、各学科に対応した業界で即戦力となる知識と技術を身につけていることとしている。 ・評価については、評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行うことを基本にしている。 その上で、講座が中心の科目については、その知識・理解を問うため原則として筆記試験を行う。 実習については実習先機関と連携し、実習中の成果物及び態度等を基に判定し評価している。 実技中心の科目では完成した作品の評価を基本とするが、その製作過程における態度、提出期限等も作品評価の中に反映させている。 ・作成した各学科別学年別シラバスについては前年度末にホームページで公表することとしている。 ・授業の方法は、基本概要講義⇒校内実習⇒企業インターンシップ研修の順に全体カリキュラムを設計し、それぞれの科目でのシラバスを作成している。 ・個々の科目のシラバス作成については、担当教員が作成し教務部長による確認審査後に学校長をトップとする教育課程編成会議において承認する。 ・到達目標については、各学科に対応した業界で即戦力となる知識と技術を身につけていることとしている。 ・評価については、評価者は、自分の主観に頼ることなく、できるだけ客観的な資料に基づいて評価を行うことを基本にしている。 その上で、講座が中心の科目については、その知識・理解を問うため原則として筆記試験を行う。 実習については実習先機関と連携し、実習中の成果物及び態度等を基に判定し評価している。 実技中心の科目では完成した作品の評価を基本とするが、その製作過程における態度、提出期限等も作品評価の中に反映させている。 ・作成した各学科別学年別シラバスについては前年度末にホームページで公表することとしている。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目ごとの試験及び提出物評価（60％以上の評価で合格）
卒業・進級の認定基準
・各学年の授業日数の4／5以上の出席及び、各教科の4／5以上の出席 ・各年科目評価で不可が2科目以内
学修支援等
（概要） 授業内容の理解を深めるため及び外部の検定試験合格促進を目的として、休み時間を活用した個別指導や放課後や土曜日等の補講、更には夏休み等の長期休暇期間中の補講等を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他

8 人 (100%)	0 人 (%)	8 人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) アパレル企業（企画職、販売職、技術職）等			
(就職指導内容) 自己分析、企業リサーチ、履歴書作成指導、面接指導等に加えて企業インターンシップでの経験を基に就活指導をきめ細かく実施			
(主な学修成果（資格・検定等）） 等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	1 人	3.7%
(中途退学の主な理由) ・進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 日常指導：観察とコミュニケーション ・無断欠席者への連絡、 ・面談：年 3 回以上（課題の早めの把握、問題の共有、課題解決の支援）、3 者面談		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
ブライダル科	150,000 円	600,000 円	150,000 円	
ファッション 流通ビジネス科	150,000 円	600,000 円	150,000 円	
プロフェッシ ョナルデザイン科	150,000 円	600,000 円	150,000 円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hiro-design.ac.jp/files/p09_1.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
・学校関係者評価委員会において、社会的要請に応えた実践的かつ高度で専門的な知識・技能を付与する職業教育を行うこととした本校の教育活動について、その目標の達成に向けた取組状況や達成状況について評価を行う。 ・学校関係者評価委員会の委員については、高等学校関係者 1 名、企業関係者 2 名以上、保護者 1 名以上、卒業生 1 名以上、生徒は各学科 1 名を選任することとする。 ・学校長は、委員会における評価結果を次年度の教育活動その他の学校運営の改善等に活用し、組織的・継続的な改善を図ることを目的とする。 ・学校関係者評価結果については、郊外評価項目の担当を中心に対応について検討し、次年度対応できるものについては前年度末の職員会議で対応方針及び対応方法等を決定・周知し対応する。次年度、対応に時間がかかるものについてはできるだけ速やかに学校長の責任において対応を行う。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
高等学校校長	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日	高等学校
高等学校家庭科部会長		
企業幹部	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日	企業
保護者	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日	保護者
生徒（3 名）	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日	生徒
学校関係者評価結果の公表方法		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://www.hiro-design.ac.jp/
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://www.hiro-design.ac.jp/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	ヒロ・デザイン専門学校
設置者名	学校法人出田文化学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		10人	9人	人
内 訳	第Ⅰ区分	6人	6人	
	第Ⅱ区分	4人	2人	
	第Ⅲ区分	人	1人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

- (1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

- (2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0 人	0 人	0 人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0 人	0 人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0 人	0 人
「警告」の区分に連続して該当	人	0 人	0 人
計	0 人	0 人	0 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0 人	後半期	0 人

- (3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1 人
3 月以上の停学	人
年間計	1 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3 月未満の停学	0 人
訓告	0 人
年間計	0 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	人	0 人	0 人

G P A等が下位 4 分の 1	人	1 人	0 人
出席率が 8 割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0 人	0 人
計	人	1 人	0 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。